

月刊

いじろのとも

第十三卷

十二月号

身体にこだわる文化

身体にこだわる文化が
だんだんと隆盛になる

いれずみ

美容整形

身体ペインテイング

変形させた頭髮

ヌーティスト

ボディビル

ミニスカート

巨乳の露出趣味

などなど

他己が萎縮し

自分の内面に

頼るものが無くなって

外見を誇りたがっている

人間も動物進化の結果

進化論

精神までも

説明が

できるとうぬぼれ

ますます高め

人生を考え直して

みたい人は（一〇七）

空海『即身成仏義』解説（一〇）

〔四〕 1 六大総説〕 続き

また『大日経』に云く、「我れ、即ち心位に同なり。一切処に自在にして、普（あまね）く種種の有情、及び非情に遍ぜり。阿字は第一命（みょう）なり、バ字は名づけて水とす、ラ字は名づけて火とす、ウン字を名づけて風とす、キャ字は虚空に同じ。」

* は梵字

この経文の初めの句に、我即同心位というのは、所謂心は、則ち識智なり。後の五句は、即ち是れ五大なり。中の三句は、六大の自在の用（ゆう）、無礙（むげ）の徳を表わす。『般若経』及び『瓔珞経（ようらくきょう）』等にまた六大の義を説けり。

例によつて参考までに、現代語訳を頼富本宏著『日本の仏教2 空海』（筑摩書房刊）の「即身成仏義」から、引用させて頂きます。

また、『大日経』の「阿闍梨真實智品」に次のように説かれている。

「我は、実に心の位相（心位）と同じである。あらゆる場所に自由自在であり、種々の生きもの、また生きものでないものすべてに偏在している。阿字は、第一の生命である。バ字を名づけて、水大という。ラ字を名づけて、火大とする。ウン字を名づけて、風大とする。キャ字は、虚空と同じである。」

この経文の最初に、「我は、心の位相と同じである」とあるが、ここでいう「心」は、まさに「識智」のことである。あとの阿字以下の五句は、実にこれらは五大を説いている。中間の、「あらゆる場所に云々」という三句は、六つの存在要素の自由自在なる作用と、礙（さまた）げのないという徳性を表わしている。

『般若経』及び『瓔珞経（ようらくきょう）』などにもまた六つの存在要素の意義が説かれている。

* * * * *

今月号には、新しく、難しい言葉は、出ていません。これまでの復習になると思います。

ここで一番大切な部分は、出だしの、「我れ、即ち心位に同なり。一切処に自在にして、普（あまね）く種種

の有情、及び非情に遍ぜり」だと思えます。

お大師さんは、この心位を「心は、則ち識智なり」と解釈されています。この識智は、すでに先々月号（十月号）で、出てきました。

復習ですが、「識」は、原因と言える修行の段階でそう呼び、結果にあたる「さとり」の段階では、「智」と言うということです。

私たちは、意「識」の「自我・人格」の働きとして、自らがより善い人間になること（「人格の完成」）を目指して、修行・精進します。

このように、聖者を信じ、その教えに基づいて、ひたすら修行・精進するとき、私たちは、いつかはしらず、覚りの智慧に至る事ができるのです。私の理論で言いますと、髄識（無意識）に宿す、精髓（煩惱蔵識）と神髄（如来蔵識）とが統合されて覚りが開かれるのです。

そして、その覚りの智慧そのものを仏の智慧として表すとき、大日如来では「法界体性智」と呼びます。そして、その無意識での智慧が意識の世界に現れ出たものが、四仏の智慧とされます。それは、先々月号で述べましたように、如来では「大円鏡智」、宝生如来では「平等性智」、無量寿（「阿弥陀」）如来では「妙觀察智」、不空成就如来では「成所作智」となるわけ

です。なお、それぞれの智慧がどんなものだったかは、先々月号（十月号）をご覧ください。

ですから、識と智は、覚りに達したとき、等しいものになります。前述の、大日経でいいます「我れ、即ち心位に同なり」とは、このことです。心位とは、髄識（無意識）に宿した如来と自分が一体となることなのです。別々に言いますと、「心」とは髄識に宿した大日如来そのもののことですし、その大日如来と一体になることが「位」なのです。

次に、「一切処に自在にして、普（あまね）く種種の有情、及び非情に遍ぜり」ですが、これは、解脱者の心境と考えられます。自分が如来と一体であるという体験をしますと、あらゆる存在が自分と一体であると感じる心境に至ることができるようです。その体験を通して、如来が「遍く種類のあらゆる場所に自由自在であり、種々の生きもの、また生きものでないものすべてに偏在している」と考えることができるようになります。

六大につきましては、すでに取り上げましたので、そこをご覧ください。

最後に、經典の名前ですが、正式には『大般若経』であり、『菩薩瓔珞本業経』です。

自作詩短歌等選

世界宗教になるべし

インドネシアの
イスラム神学校では
イスラム教こそが
世界宗教であり
他の宗教は否定され
なければならぬ
そして
イスラム教徒こそが
世界の統治者と
なるべきだと
教えている
そして
その為には
お腹に爆弾を巻いて
テロを行え
と教えている

なぜか刹那的なのだ

髪形がすばらしい
総理大臣よ
今日は善人
でも
明日は悪人か
今日の県知事も
明日は罪人
なのだから
刹那的な政治
刹那的な経済
刹那的な教育

いま

日本では
すべてが

刹那的なのだ
孔子でさえ
上が乱れれば
下が乱れる
と言っているぞ

抜け道探す敏腕弁護士

法律の
抜け道見つける
弁護士が
腕がよいとは
法律がなく

無責任時代の代表選手

裁判官はいいなあ
死刑の判決が
上級審では
無罪になっても
責任がないのだから
精神科医はいいなあ
責任能力があると
精神鑑定して
死刑の判決でも
上級審で
別の人が
責任能力がないと
鑑定して
無罪が確定しても
責任はないのだから

幻想の世界の癒し

いま世界中の人が
自己に閉じこもり
統合失調症が示す
幻覚や妄想に近い
「幻想」の世界に
癒しを求めている

映画ばかり
漫画ばかり
小説ばかり
芸術ばかり
理想ばかり
思想ばかり
テロばかり
全ての人間現象から
他己が欠落している

人権の叫び

犬畜生のような
殺人鬼にも
人権がある

少年なら

何十人殺そうと

処罰されない

人権がある

人権

人権

人権

ああ

人権

人権が益々廃れる

人権を

言えば言うほど

人権が

廃れる逆説

何とすべきや

心が豊かとは？

物が豊かになった分

心が貧しくなっている

でも

心が貧しいとは

物が豊かでも

自分の満足感や

幸福感が得られないこと

だ

と多くの人が考えている

人間は

いくら自分の欲望の満足
を

追求しても

決して幸福には至れない

人間の本質は

そこにはないからだ

人は人のために

役立っていると

実感するときだけ

幸福感が得られる

そこに人間の人間たる

ゆえんがあるからだ

米国の価値基準

米国は

民主主義
自由（自由競争）主義
市場原理至上主義
グローバリズム

を世界共通の普遍的価値とし
それを世界に広める義務を
負うと同時に
その力を持っている
と自負している

こんなものを
普遍的価値とする限り
米国の
いな世界の滅亡は
もう間近だ

なぜか株価は下がる

デフレ対策を
あざ笑うかのように
株価は下がる

なぜなのか

経済学者も
政治学者も
もつと

目を見開いて
いや

目を静かに閉じて
反省なさつたら
いかがかな

でも

愛国心が
欠けているから
などと言わないでや

自作随筆選

GHQ型民主主義

毎日新聞には、毎週、火曜日に「グローバリゼーションの光と影」と題する、文化人が入れ代わって書かれる連載があるのですが、十二月三日（火）は、東京経済大学教授の竹前英治氏による「期待したい復元力と民主主義」と題するものでした。なお、この方は、「日本占領史」がご専門のようです。

今回、アメリカは、イラクのフセイン政権を倒した後には、GHQが日本で行った非軍事化・民主化政策をモデルにした政策を計画している、と先日、報道されました。この方はこれを機に自分の専門から、モデルの功罪を列挙されているのですが、そこで述べられていることを見ますと、世界中で誰もがそんなのですが、この方も、「民主主義とは何か」が全く分かっておられないようです。で、ここで取り上げさせて頂くことにしました。その記事では、民主主義制度の旗手であるアメリカが現在取っている政策への疑問が幾つか挙げられています。それらは、アメリカの単独主義ないし独善主義を指摘す

るものですが、その指摘の後に、次のような記述があります。少し長くなりますが、引用させて頂きます。

* * * * *

「アメリカが日本で行った占領改革とイラクで行おうとしている改革とは全く条件が異なる。すなわち、日本では、民主化を受け入れる基盤 高い教育水準、民主化を歓迎する国民意識、天皇の協力 があつたのに対し、イラクにそうした基盤があるとは思えない。主権在民と象徴天皇、戦争放棄、・・(途中略)・ 国家神道廃止と政教分離、6年制医学教育などは、GHQなしには実現しなかつた改革であろう。・・(途中略)・」

もちろんGHQが行った改革にも負の遺産がある。たとえば、天皇を政治利用するために戦争責任を免除したため政官財の無責任体制ができた。・・(途中略)・ 個人主義を強調するあまり、国家意識や公共意識を欠如させました。さらに、アメリカの豊富な物質文明にここがれて拜金主義に走り、制度・手続きは民主化されたが、民主主義の心(マイノリティの尊重など)の導入に失敗した。・・(途中略)・ 押しつけ憲法とか、愛国心が乏しいのは教育改革のせいだとか、ひいては今日の諸悪の根元は占領政策であるという議論があるが、見当違いである。それらはすべて占領終結後の日本人自身の問題だ。

なぜなら占領改革を是正する機会は五 年間もあつたらである。」

* * * * *

皆さんはこれを読まれて、どうお感じでしょうか。私の理論をご理解いただいている方には、間違いであることがお分かりだと思えます。一つずつ説明して行きます。まず、この方は、「国家神道廃止と政教分離」をGHQがなければ実現できなかった「よい改革」だと、お考えのようですが、これが根本的な間違いです。

国民の精神生活から「信仰」を国家として完全に排除したのは、世界中で、日本が最初ではないかと思えます。私も、大東亜戦争を支えた思想として「国家神道」を排除したのはやむをえなかつたと思えますが、それに変わる信仰を何らかの形で定着させるべきだったので。例えば、キリスト教なり、ヨーガなり、仏教なりを推奨すべきだつたと思えます(アメリカが推奨できるのはキリスト教だと思えますが)。

多くの方は、憲法が「宗教の自由」を保障しているのだから、そんなことはできないとお考えだと思えますが、そこが間違いのもとなのです。実は、信仰は、憲法の上位にあつて、憲法を規制しているのです。言い換えれば、憲法制定や憲法改正の根本規範、よく言われます「不磨

の大典（＝明治時代の大日本帝国憲法のこと）に等しいものなのです。この根本規範には決して改正はないのです。キリスト教では、それは「聖書」ですが、かつて、その「聖書」が改正されたことは一度もなかったのです。

そして、アメリカでは、現在でも、毎日学校で、「神の下に」あるアメリカ合衆国の国旗に忠誠を誓っているのです。勿論、アメリカも憲法で「信教の自由」を保障し、かつ「政教分離」を定めています。なのに、そうしているのです。

余談ですが、そのお陰でアメリカは世界中でだんとうで「絶対的道德」を維持しています。マックス・ウェーバーが指摘しましたように、今でもキリスト教の信仰に裏打ちされた「倫理・道徳」と「自由主義・資本主義」とが車の両輪となって、アメリカの繁栄を支えられてきたのです（段々と揺らいで来ていますが。それは、「米国凋落の二つの兆し」と題して論じました。）

さらに余談ですが、日本の経済的混乱、デフレ・スパイラルを脱するために、いま政府は必死で政策を出しています。それは、アメリカかぶれの「総理大臣と経済財政・金融担当大臣」とがタッグマッチを組んで、売国奴まがいに、アメリカの真似をしようとするものですが、でも、アメリカの真似をしても、決して立ち直れること

はないと思います。それは、アメリカにあるような「信仰に裏打ちされた『倫理・道徳』」がないからなのです。車の両輪の片方を欠いているからなのです。

閑話休題。竹前英治氏が書かれた記事の検討に、再び、戻ります。

このように、GHQの「国家神道廃止と政教分離」政策によって、日本からあらゆる信仰を排除したことが、日本が陥っている「今日の諸悪の根元」となっているのです。

次いで、この他「GHQが行った改革にも負の遺産」がある、とされていますが、その点の検討に移ります。前述のように、負の遺産がもたらされた理由がそれぞれ付いているのですが、無視して負の結果のみ挙げますと、「政官財の無責任体制」「国家意識や公共意識の欠如」「拝金主義」「民主主義の心（マイノリティの尊重など）の導入の失敗」となっています。こうした負の結果は、実は、それぞれ挙げられた個別の理由を超えて、すべて、民主主義が必然にもたらす結果なのです。

これまで何度も述べてきましたように、民主主義には、「自己原理」しかありません。人間の人間たるゆえんをなす「他己原理」が欠如しているのです。

ここに出てきました「民主主義の心（マイノリティの

尊重など)の導入の失敗」など、民主主義原理の中にはかけらもないのです。そうした「マイノリティを尊重する心」は、信仰の中にこそあるものなのです。

いま、アメリカが世界に突きつけて自己主張しようとして三つの原則、自由競争、市場原理至上主義、グローバリゼーションをみれば明らかなのですが、民主主義・資本主義の基本は、あの進化論の中心思想をなします自然淘汰、適者生存の考え方のものなのです。そこには、人間的に「マイノリティを尊重する心」など全く欠けているのです。

ですから、信仰心のない日本人には、そんな心など、無縁なものといえるのです。

他己原理を欠いて自己に閉じますと、人間は自己の利益や選好の追求のみを生き甲斐とするようになります。それは、言い換えれば、自己の情動の追求こそが生き甲斐になるのです。情動とは、欲望(性欲・食欲・優越欲)や情緒(快苦喜怒哀楽)や気分などです。その追求こそが自分自身を支えるものであり、それしか、自分自身が頼れるものがないのです。

ここに挙げられました負の結果である、「政官財の無責任体制」、「国家意識や公共意識の欠如」、「拝金主義」、「民主主義の心(マイノリティの尊重など)の導入の失敗」

などは、すべて、こうした自己に閉じた心の現れなのです。

前掲の引用の最後に、こうした「今日の諸悪の根元は占領政策である」という議論があるが、見当違いである。それらはすべて占領終結後の日本人自身の問題だ。なぜなら占領改革を是正する機会は五 年間もあつたからである。」とありました。

ここでも、間違われています。

確かに、日本のこの社会的窮状は日本人自身が招いたものですから、今の「はやりの言葉」で言えば自己責任ということになると思います。でも、それは、「占領改革を是正する機会は 5 年間もあつた」のに、この方が述べておられるような、浅薄な分析でしか原因を指摘できずに来た、そこにこそ、真の原因があるのです。

私たち日本人が完全に近いほど信仰を失い、自由主義・民主主義・資本主義だけを、自分が頼れる思想として受け入れ、それにのみ依存してきたからなのです。しかし、それらは、繰り返し返しますが、自己のみを追求する制度なのです。ということは、自らの頭の上に自らが立つようなことをして来た、と言えるのです。それに気付けないことが真の原因なのです。一人でも多くの方が、早く気付かれるようになることを祈らずにはおられません。

釈尊のごとば（一一八）

法句経解説

（三六七）名称とかたちについて、「わがもの」という思いが全く存在しないで、何ものも無いからとて憂えることの無い人、かれこそ 修行僧とよばれる。

まず、「名称とかたち」ですが、現象界のあらゆる存在は、名称やかたちをもっています。そうしたものに「わがもの」という思いが全く存在しない、そういう人こそが修行僧だということです。

ところで、あらゆる存在ですが、それには、人間も含まれます。ということは、人間のもつ精神作用も、それに含まれる、ということなのです。

そうなりますと、外界には存在しないのに、人間の精神作用が、それ自身で生み出す新たな「わがもの」という思いが発生して来ることになるのです。それは、人間だけがもつ、他者より優れたたいという思いから生まれる執着の対象です。そうしたものとして、名誉欲があり、支配欲があり、権力欲があり、出世欲があるのです。

そうした、あらゆる欲求の対象となるものに対して、

「わがもの」という思いが全く存在せず、また「何ものも無いからとて憂えることの無い人」、そういう人こそが 修行僧 だということです。

こうなることは、口で言うのは簡単ですが、実行するのはとても難しいことです。現実の人で、こんな人に出会ったことはありません。

究極的には、食べるものでさえも、この「わがもの」と思ってはならないものの中に入ると思えますから、食べものがなくても、憂えないようにならなくてはなりません。ということは、自分の命を永らえることにさえも、執らわれないということになります。

これは、なかなか、難しいことだと思います。多くの人には、それは望めないと思いますが、少なくとも、人間精神が自己に閉じたとき作り出す「優越欲」だけは持たないようにはいかげでしょうか。

多くの人が、それを慎むだけで、この世はどんなに住みやすくなるかわかりません。

そうなりますと、人を羨むこともなくなりますし、人を妬んだりすることもなくなります。

きつと世界に平和が訪れるのではないのでしょうか。自らの民族が、自らの宗教が、自らの主義が、優れていると争うことがなくなることでしょうから。

(三六八) 仏の教えを喜び、慈しみに住する修行僧は、動く形成作用の静まった、安楽な、静けさの境地に到達するであろう。

まず、出だしの「仏の教えを喜ぶ」とは、どんなことなのでしょう。

これはなかなか難しいことです。仏の教えを信じるのが、まず、信仰のはじまりですが、その教えを喜ぶのは、その教えを信じた結果、よいことが起こったからではないでしょうか。そうしないと、なかなか喜ぶところまではいかないように思えるのです。

私たちにできることは、仏の教えを信じて、毎日、毎日、欠かさず、それを魂の栄養として取り入れることです。たとえば、この法句経を繰り返し、繰り返し、読んでみることです。毎日、五句づつでも決めて、読んでみることで、そして、それを実行しようと努力することです。そうしていきますと、やがてその教えそのものを喜ぶことができるようになるのではないのでしょうか。

また、そうして教えを喜ぶことができるようになりますと、他者に対して「慈しみ」をもつことができるのです。他者に対して根気強く優しくすることができるよう

になるのです。他者の喜びを我が喜びとし、他者の悲しみを我が悲しみとすることができるようになるのです。次の「動く形成作用の静まった、安楽な、静けさの境地」ですが、これまたなかなか難しいことです。

解脱や覚りの境地のことを、ニルバーナ・涅槃寂靜といいますが、この文章を読みますと、この言葉を思い出します。

「動く形成作用」とは聞きなれない言葉ですが、私の理論では、それは、自己の情動（こころの動き）のことではないかと思えます。情動は、何度も申しますように、大きく三つに分ければ、欲望（性欲・食欲・優越欲）、情緒（快苦喜怒哀楽）、気分になります。

こうしたものは、自分のコントロールを超えて勝手に動いてしまうのです。ここでいう形成作用が勝手に働いてしまうのです。たとえば、座禅なりヨーガなりで、瞑想していても、悩み事があれば、こころは勝手にいろいろと思いを巡らせてしまします。「自我・人格」の働きとして、いくら抑えようと思っても、なかなか思うようにはいきません。

仏の教えを信じ、ひたすら、精進努力を重ねるとき、やがて、仏の教えを喜ぶことができ、こころが静まって安楽な境地に至れるのです。

後記

- 一、早いものでもう師走になりました。今年は、例年になく早くから寒波が襲来しています。何だかもう正月のような気分がします。
- 二、皆さまには、お風邪をめされませんように。
- 三、私は、このところ、政治や経済や社会制度などに、強い関心をもっています。勿論、教育制度にも関心があります。
- 四、先日も、文部科学省が出しています「心のノート」を小学校用と中学校用、全部集めてコピーし、ぱらぱらと読みましたが、どれも呆れるばかりのものでした。
- 五、また、つい最近出ました、中教審の教育基本法改正のための中間報告も、インターネットで入手しましたが、全く統一された哲学も主張もなく、議論の過程すら感じられませんでした。ただ、各委員の思いつきの意見を羅列しただけのもののように感じられました（論文にしています）。これまで、文部省が教育改革をするたびに、学校現場は荒廃の度を深めて来ましたが、今回の改正もまた、その轍を踏むようです。
- 六、先日、国会中継をラジオで聞いていましたら、日本共産党参議院議員の大門実紀史氏が、小泉総理に質問していました。その内容がとても気になって早速、大門議

員に議事録をお願いしましたら、直ちにファックスで送って下さいました。詳しく質問と答弁の内容を紹介する余裕がないのですが、概略は、次の通りです。

七、不良債権処理を加速することをアメリカは期待している。それは、加速すれば、日本の企業や銀行が倒産することになる。そうすればアメリカにとってまたないビジネスチャンスが訪れる。このようにブッシュ政権が誕生した時の『対日経済指針』に書かれている、ということのようです。これにたいして、総理は、外国からの投資意欲が起ころなかつたら日本の経済は再生しないと答えています。益々、厳しい不況が来るのでは・・・。

月刊 こころのとも 第十三巻 十二月号 (通巻 一五六号)	平成十四年十二月八日 〒772 8502 徳島県鳴門市鳴門町高島 鳴門教育大学 障害児教育講座気付 (ひびきのさと 沙門) 中塚 善成 <small>よしと</small>
本誌希望の方は、郵送料として郵便振替で年間千円を次の口座にお振り込み下さい。加入者名 ひびきのさと 口座番号 01610 8 38660	

